

# かがやく

ハーモニーひたちなか

## 災害への備えは万全ですか？



応急給水活動の様子



道路の亀裂や陥没(市道湊1-1号線)



レールの湾曲により緊急停止した  
ひたちなか海浜鉄道

平成23年3月11日に宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東日本大震災が発生し、東北及び関東地方の太平洋地域に甚大な被害をもたらしました。また、福島第一原子力発電所では、地震・津波の被害を受け、原子力事故が重なる未曾有の複合災害となりました。元日の能登半島地震のニュースをテレビで見て、東日本大震災の体験を思いだされた方も多いと思います。いつ起こるか予測ができない災害に対して、私たちができる防災対策の一つは「過去の災害を忘れないこと」です。そして、過去の体験や記録から学んだことや教訓をつないでいくことが大切です。そこで、東日本大震災の時、良かったこと、大変だったこと、困ったこと等の体験を地域の皆さんに尋ねました。(以下に一部掲載)

### 東日本大震災を振り返る

#### 助かったこと

- ポータブルガスコンロとガスボンベを常備していたので、お湯を沸かしたり暖をとることができた。
- 損壊した家の写真をたくさん撮っていたので、罹災証明が早く出た。
- 井戸のある家から水をもらうことができ、とても助かった。
- 残っていた風呂の水をトイレ等の水として使うことができた。



被災した家屋

#### 困ったこと、大変だったこと

- 給水所に水を汲みに行くのに苦労した。
- 日帰り入浴施設がどこもいっぱいに入れるところを探すのが大変だった。
- とにかく周りの情報を知る事ができなかった。
- ガソリンの給油に何時間も並び給油量に制限があったため、何度も給油するのが大変だった。

#### その他

- 頭巾や必要な物をまとめたリュックを用意しておくことが大切だと思った。
- 非常時の情報交換は「命」を守ることにもつながる。日頃からのコミュニケーションは大事だと思った。

次号では災害への備えを学んでいきます。

# ハーモニーひたちなか総会を開催しました

令和6年5月15日、ふぁみりこらぼにて、令和6年度ハーモニーひたちなか総会が開催されました。一部の議事に変更があったものの、全員の賛成で議事が承認されました。また、会員アンケートの結果、今年コンセプトは「防災、地域防災」になりました。「消費生活+ハーモニー展」や「ハーモニーひたちなかフォーラム」などのイベントに向けて日々取り組んでいきたいです。興味がある方は、ハーモニーひたちなかへの入会をお待ちしております！

詳しくはこちら▶



## 相談窓口のご案内

令和6年4月1日に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。また、困難な悩みを抱える女性が安心して暮らせるよう、**女性相談支援センター全国共通短縮ダイヤル#8778（はなそうなやみ）**の運用を開始しました。下記の相談機関でも、相談を受け付けております。

相談専門機関	電話番号	受付時間
茨城県女性相談センター	029-221-4166	【電話】(平日)9時～21時 (土日祝日)9時～17時 【面談】(毎日)9時～17時(要予約)※12/29～1/3は休み
女性のための相談窓口	029-274-3002 (相談専用)	月曜日から金曜日 9:30～12:00、13:00～16:30 (祝日・年末年始を除きます) ※面談は要予約



## 今後の男女共同参画イベント

### ■令和6年度消費生活+ハーモニー展

期間：11月2日(土)～3日(日)  
場所：ひたちなか市総合体育館

産業交流フェア  
同時開催イベント

### ■DV防止月間パネル展示

期間：11月16日(土)～22日(金)  
場所：市役所 市民ロビー



### ■ハーモニーひたちなかフォーラム

期日：11月17日(日) 場所：ワークプラザ勝田 内容：表彰式、講演会

講師 一般社団法人 手話エンターテイメント発信団oioi (ザ・オイオイズ)



きこえる人ときこえない人の中にある心のバリアをぶっ壊す「バリアクラッシュ」を理念とし、手話や聴覚障害への理解を広めるためのワークショップやパフォーマンスを全国各地で展開中。「楽しく学ぶ」ことを大切にしており、エンタメを取り入れた巻き込み型のワークショップが大人気。とある市の人権講座は「誰も眠らない講座」と評された。TEDxKobe2019登壇。2024年12月吉本新喜劇とのコラボイベント開催予定。



お申し込みはこちらまで

※男女共同参画講座随時開催予定…詳しくは市報にて後日掲載いたします。

「かがやく」の  
バックナンバー  
はこちら



私たちの身の回りには危険がいっぱいだ。近年は線状降水帯という気象現象で、警報級の大雨や河川の氾濫・土砂災害を耳にすることが多くなった。

新聞には非常食の備蓄のない家庭が四割とあった。我が家ではお米は20リットのペットボトルにきっちり詰め込んでいる。かれこれ30年以上前から実施している。味は落ちるかもしれないが、夏場でも虫が湧いたことはない。

それと缶詰類・乾麺・お餅・カップ麺・数種のふりかけなど日々の暮らしで使いながら、備蓄を心掛けている。

今後もしも続かず継続していきたくない。



編集者の  
つぶやき